

これまでで最も古い大正10年の蔵王の アイスモンスターの写真が見つかりました

山形大学学術研究院 柳 澤 文 孝

1. はじめに

大正10年1月の蔵王山巖冬期初踏破の紀行文と
その際に撮影された蔵王の「アイスモンスター」
の写真が慶応大学山岳部「登高行」第3年（大正
10年6月出版）より見つかりました。「アイスモ
ンスター」についてこれまでで最も古い、蔵王の
樹氷が有名になる前の、写真です。

さて、「樹氷」には二つの種類があります。一
つ目は、「エビノシッポ」ともよばれているもの
で、過冷却水滴の着氷によってできます。明治
6年の第一回万国気象会議で定められた Silver
Thawを明治9年頃に和訳したもので、世界の山
岳地帯で見られます。二つ目は、「アイスモンス
ター」ともよばれているもので、アオモリトド
マツ（オオシラビソ）へ付いた着氷と着雪が結
合して氷となることでできます。「アイスモンス
ター」は大正3年2月15日に蔵王冬季初登頂した
神山峯吉らによって発見されました。発見当時は
雪が凍ってできると考えられて「雪の坊」や「雪
瘤」とよばれていました。一方、「エビノシッポ」
についても雪が凍ってできると考えられたことか
ら、「アイスモンスター」は「エビノシッポ」が
アオモリトドマツ全体を覆ったものと誤解され
て「樹氷」とよばれるようになりました。なお、
「アイスモンスター」が着氷と着雪が結合して氷
となることでできていることが分かったのは1960
年代の終わりになってからです。

「アイスモンスター」は日本でしか見ることは
できません。それは、「アイスモンスター」の生
成に、アオモリトドマツのような常繁の針葉樹が
必要なこと、一定方向の季節風や風速・気温と
いった様々な気象条件が必要なためです。かつ
ては北海道の羊蹄山などや長野県にある志賀高原

の横手山や菅平の根子岳でも見られていたが、
温暖化に伴い、1970年代以降は東北地方の一
部の山岳地帯（八甲田・八幡平・森吉山・蔵王・
西吾妻）でしか見るができなくなっています。

2. 蔵王冬期初踏破と「樹氷」の写真について

これまで、蔵王山巖冬期初踏破は大正10年の慶
応大学山岳部ということはわかっておりましたが、
踏破を急いだため「アイスモンスター」には
気がつかなかったとされておりました。その後、
初踏破時にアイスモンスターの写真を撮影したと
の論文（三田幸夫1973山溪）が見つかりました
が、写真の所在についての記述はありませんで
した。

一方、「エビノシッポ」は石崎光瑤氏の大正10
年（山岳）、「エビノシッポ」と「アイスモンス
ター」と中間的な物は榎谷哲蔵氏の大正13年（山
溪）、「アイスモンスター」は昭和2～3年の鉄道
省などが最も古い写真であると考えておりました。

その後、慶応大学山岳部の部報である「登高行」
を調査し、蔵王山冬季初踏破の際の紀行文と、そ
の際に撮影された「アイスモンスター」の写真を見
つけることができました。

3. 新資料について

大正10年6月発行の慶応大学山岳部年報「登高
行」第3年（図1）に早川種三氏の「冬の蔵王越
え」と題する紀行文（図2・図3）と行程につ
いての記載（図4）があり、鹿子木員信（かのこぎ
かずのぶ）先生と学生7名が大正10年1月8日に
峨々温泉から地蔵嶽を經由して高湯温泉へ踏破し
たことが記されていました。また、初踏破に参加

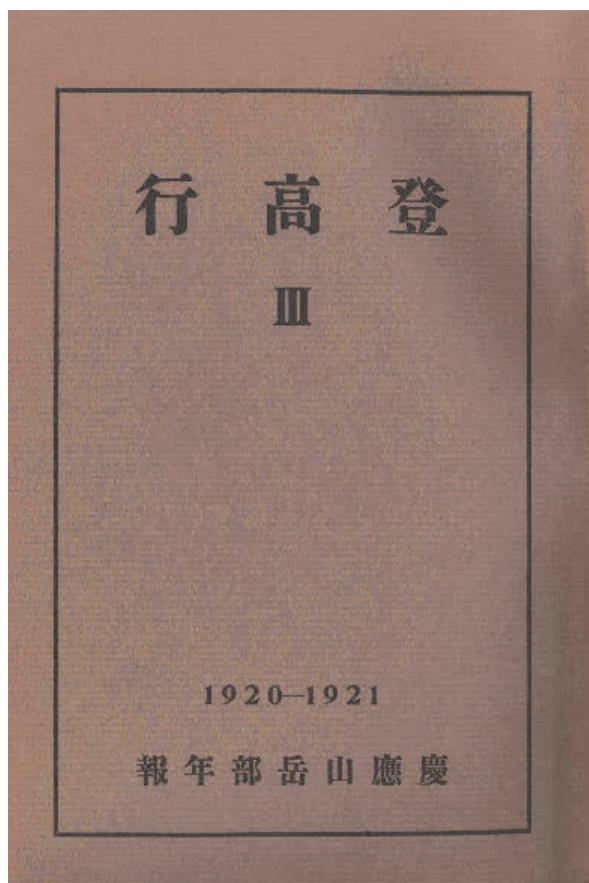


図1



図2



図4

した豊邊國臣氏が撮影した3枚の写真(図5・図6・図7)も掲載されており、それらには「アイスモンスター」が写っており、「アイスモンスター」について、これまでに最も古い写真です。

また、紀行文には「夕光のかすかな光が尾根の樹氷のみを輝しかけた頃に明日来る事を約して……真暗な森道を木根に躓きながら七時半過ぎに(岬々温泉から遠刈田)牧場に帰って来た」、「神社は銀で作られる而もその銀雪は風の為に一面に銀の針を描してある様に思はれる」との記載があります。前者は標高1300mの賽の河原付近から1800mの蔵王山山頂を見上げた際のもので、後者は目の前にある物についてのものですので、前者が「アイスモンスター」で後者が「エビノシッコ」と考えることができます。紀行文では「エビノシッコ」を「樹氷」とは考えておらず、「アイスモンスター」を「樹氷」とよんでいることになりませんが、直接よぶような表現とはなっていません

んでした。また、「三寶荒神山と高湯温泉に続く尾根は「しらべ(シラビソのこと)」の森林を以て覆われているのが見える。三寶荒神山と地蔵嶽の鞍部の森林は全く雪に覆はれて結氷してサンタクロースの森の如き感を懐かせるこの大森林は生きている様に風に吹かれて力強く動いている」との記述があります。「樹氷」を「エビノシッコ」といった一部分ではなく樹木や森林といった群や塊で見えており、「アイスモンスター」を「樹氷」とよぶといった名称もまだ充分には確立していないことが分かります。また、大正10年当時、「樹氷」はアオモリトドマツを覆った雪の結氷でできると考えていたことも分かりました。

大正10年は、蔵王の「アイスモンスター」が全国的に有名となる前のことです。大きくて重いカメラを持参していることから、記録を目的として、準備をして来ていることはわかりますが、初踏破前から「アイスモンスター」を知っていたかどうかまでは判断できませんでした。また、これ



図3

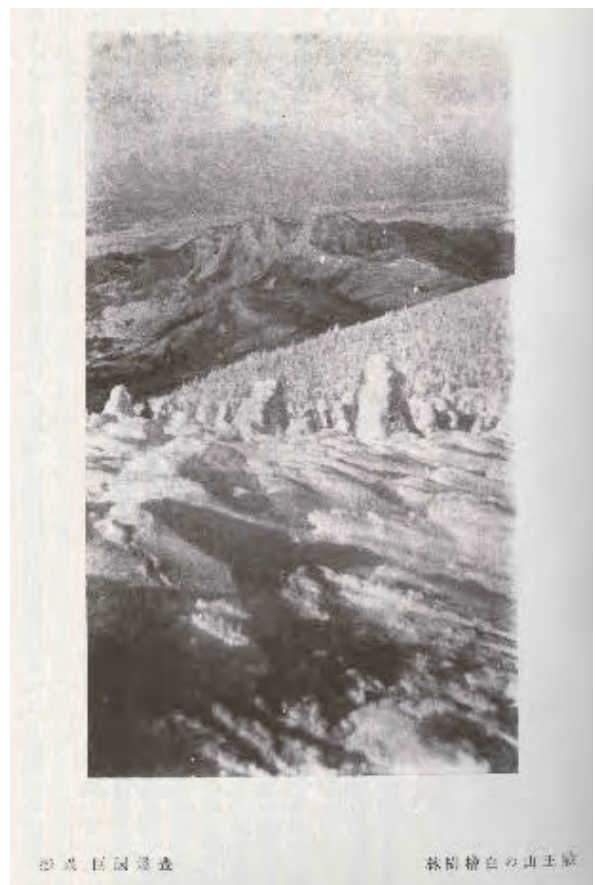


図5

までいわれてきたように冬季初踏破に集中していたため、「アイスモンスター」を見ていなかったわけではない、ということが分かりました。「登高行」によって、蔵王の「アイスモンスター」が広まるきっかけになったと考えられます。

なお、同誌によれば、同山岳部は蔵王初踏破の後、五色温泉に移動し、大正10年1月から3月に

かけて、家形山・東大嶺山などにも登頂しています。季節から考えますと、そちらでも「アイスモンスター」に遭遇したと考えられますが、記述や写真はありませんでした。

また、1957年に出版された「登高行」の15号(図8)には鹿子木員信による冬季初踏破の回想録が掲載されていました(図9)。



図6



図7



図8



図9